

■ 研究所の現況

一、会員

ここ数年、毎年三〜一〇人の入会者を迎えてきたが、退会者の数がそれを上まわり、会員減の傾向に歯止めをかけることができない。現在の会員数は、最多時

職種別会員構成比(1994.8)

職 種	構成比%	
教 員	小 学 校	41.0
	中 学 校	
	高 等 学 校	
	障 害 児 校	
	大 学	6.7
保 育 園	3.8	
主婦・退職教員	20.6	
随 員	5.3	
そ の 他	22.6	

職種別会員構成比(2004.9)

職 種	構成比%	
教 員	小 学 校	27.5
	中 学 校	
	高 等 学 校	
	障 害 児 校	
	大 学	6.4
保 育 園	3.0	
退職教員(注1)	26.4	
随 員	4.4	
その他(注2)	32.3	

※特別会員(団体)を除いた数値です。

(一九九四年)の六五%である。

十年前と対比した会員の職種別構成比を上段の表に示した。

現職教員(小・中・高・障害)会員の比率がこの十年間で一三・五ポイントも低下した。それに対して退職教員の比率の増加が目立つ。その他の職種は、医師、弁護士、農業・自営業、一般勤労者等である(〇四年には主婦二三・七%を含んでいる)。

二、財政

〇四年度予算についていえば、若干の黒字繰越金はあったものの、会員減による会費減収が予想されるため昨年度比二・九%減で予算を組まざるをえなかった。配分は概略次の通りである。

〔管理費〕(人件費、事務所費、家賃・光熱費等) ……三四・八%

〔研究活動費〕 ……六五・二%

- ・ 情報発行費(五〇・一%)
- ・ 通信費(二〇・六%)
- ・ 印刷費(一・二%)
- ・ 資料費(三・八%)
- ・ 活動費(人)所員旅費等V

(二三・〇%)

- ・ その他(一・二%)

三、所員態勢

所長と所員八人、事務職員一人の陣容である。ここ何年かは所員の増員を果たせず、高齢化や病氣などで活動力の低下はいなめなかった。しかし〇三年度一人、〇四年四月から二人の所員を新しく迎えることができた。これによって機動性も増し現場教員や市民との接触の場をより広げていく希望が見えてきた。

(事務局長・片岡弘)